

西安路地裏物語



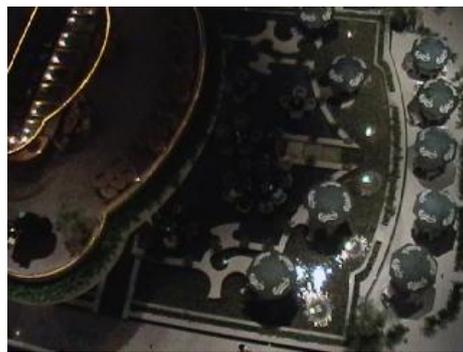


西安屋台村散策

西安・南大路～東大街の夕暮れから・・・ブラブラと。
左～右、左～右とゆっくり、ゆっくり眺めてください。
古の都・長安の面影を偲びながら・・・



南門にある長安城堡大酒店
(全日空系)こちらではキャッスルホテルで
タクシーの運転手は通じる。
ライトで縁取りした南門



疲れ果てて、部屋でマッサージをもらった。ミニスカートの可愛い女だった。
気に入ったので次の日も頼んだ。2500円だった。1時間たっぷり。
ホテルで頼むと、大体、こんな相場らしい外ですと、1500円ぐらい。連れがコ

一ヒ一飲みに行っていて、ウツカリ外に出たら中からカギが掛かってしまい中へ40分ぐらい入れず、ユカタのままで30階位の中廊下から下を眺めていた。左端に見えるピアノから「北国の春」が悲しく聞こえてきた。遠くにボーイが見えたので、大きく手招きしたのだが、勘違いをしたのか、笑い顔で手を振って返した。悲しかった。

折角按摩でほぐれた筋肉が又固まって行くような気がした。



番外編

西安で見かけたチョットナイスぎやる。右端は美容室。

体形が日本人？

ヤオシー ワン ザイ ファンジェン ラ

(部屋にカギをわすれた！！)

美容室はととも多い。

西安に行ったらツアーから離れて単独行動をとりたい、と旅行社側に申し込み段階で言って置いた。

大雁等～陝西博物館と市内タクシーに乗り単独ツアーは始まった。未だまともな中国語は使ったこともなく、通じると思っていた多少銭(ドーシャオチェン)これ幾らですか？も北京の朝の公園で売ってたパンを買うとき、言ってみたら、全く通用せずじまいで、すっかり自信をなくしていた。

後で分かったのだが四声つまり中国語独特のイントネーションが全くなっていなかった。そんなわけでタクシーに乗った方がいいが行き先を**到と去**をうまく発音できるか心配だった。

なんてことはなく通じたので喜んでいただけ、考えてみればタクシーだと地名さえ通じればあとは言わなくてもいいことがわかった。

助手席に乗ってビデオムービーを右や左や向けながら時々後ろの仲間に声を掛けて、うるさい客だと思ったことだろう。夕方5時前に城外コースを終わり、ひとまず長城／全日空ホテルで服装を変え碑林から古文化街へ向かった。

安物と言ってもなかなか上等に見える筆をみやげに買ったり、博物館では玄奘三蔵の馬に乗った拓本を買う仲間もいて結構楽しい時を過ごした。

晩御飯はなるべくこちらの人たちが普段食べてるような所で食べてみよう、と路地裏を選んで歩いた。店前に大きな釜を出し、ゆげがモウモウと立ってる店があった。

宮尾さんが「僕、こんなシーンテレビで見たことがあります」ということで「よし、ここにするか。」と中に入ることにした。1時間ぐらい筆談まじえで、店の従業員に加え近所の店からもギャラリー会話の助っ人がきてもうムチャクチャなシチュエーションとなった。

まあ出てくるものは、食べられさえ出来れば何でも良かったし、結構美味しかった。「ハオチー」を連発して店を出た。ちなみに料金は4人でビールを3本ほど飲み40元位だったような気がする。日本円で600円位かな。